

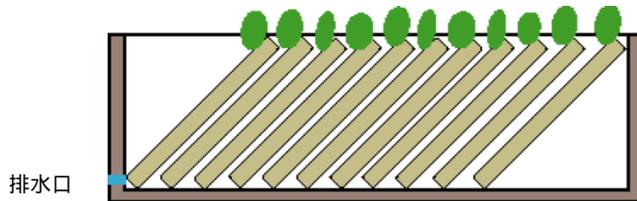
タラノメの高設水床ふかし栽培

タラノメのふかし栽培は、12月に開始し露地物がでる4月中旬までの冬季4ヶ月の間に収穫する。一般的なふかし栽培は、ハウス内に地面を10cm程度掘り下げ板枠等を設け、培地におが屑・パーライト・ロックウールなどを使用し、穂木を1芽毎に切断して伏せ込む方法である。この方法では、作業が座ったり立ったりで負担がかかる、穂木が1芽取りのため長さが異なり挿し穂に時間がかかり、発生芽の品質にばらつきが生じる等の問題がある。

この対策として、発泡スチロール等のトコ箱を利用した簡易な高設置床にする、培地を水床にする、穂木の長さを12cm程度に揃え45度の角度で芽を上に向け斜め挿しにする、以上3項目の改善を行った。

この結果、置床を高設にすることで挿し穂作業や収穫作業の労働軽減が可能で、穂木の長さを揃えることにより品質のばらつきが少なくなり、さらに45度の傾きを与えることで芽の収穫がしやすく芽の曲がりが少ない等のメリットがある。

また、高設ふかし栽培では、発芽促進剤のジベレリン処理濃度は25ppmで発芽良好であり、発生芽収量は穂木重量の約2割であった。



第1図 高設水床ふかし栽培の伏せ込み方法

穂木の長さ：12cm程度、伏せ込み角度：45度

排水口：底面から1.5cm



写真1 収穫作業

第1表 穂木及び種根確保の目安

年数	穂木長 (cm)	穂木本数 (本/a)	1穂着芽数 (個/本)	穂木重量 (kg/a)	種根本数 (本/a)	種根重量 (kg/a)
1年木	70～154	120～140	12～17	34～80	1400	10～14
2年木	167～198	171～229	15～19	85～123	1400	15

注) 種根本数は15cmに切断した本数で、根径5mm以上の割合は4割である。

(茶業特産部)